

報道機関 各位

2021年4月16日
一般社団法人 日本画像医療システム工業会

2021年度 JIRA 活動基本方針

本日はご多忙の中、「2021 国際医用画像総合展(ITEM in JRC2021) JIRA 記者会見」にご参集いただき、誠にありがとうございます。

一般社団法人 日本画像医療システム工業会(JIRA)一同、感謝申し上げます。

本稿では「2021年度 JIRA 活動基本方針」についてご報告させていただきます。

本年、年頭所感記者会見(2021年1月7日)にて、
“2021年をデジタル変革の年と捉え、ニューノーマル時代の新たな価値提供の実現をめざす。”
として、

ウィズコロナ・ポストコロナにおけるニューノーマルに向けた4つの重要課題

- ◆ DX(Digital Transformation)の拡大
- ◆ 医療従事者の業務効率向上への貢献
- ◆ 感染防止対策の啓発
- ◆ 会員企業の環境変化に伴う共通課題への支援(製品プロモーション、人材育成等)

を提示させていただきました。

本日は、これらの重要課題の進捗を中心に2021年度 JIRA 活動基本方針をご案内させていただきます。

◆ DX(Digital Transformation)の拡大

DXの拡大に向けては、

- ・AIの社会実装
- ・データの利活用
- ・サイバーセキュリティ対策

などを行政やアカデミアとともに推進しております。

そのひとつの活動として、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)委託事業、医療機器等に関する開発ガイドライン策定事業では、人工知能分野の開発ガイドライン策定に参画しました。

開発ガイドラインの中には、「学習済パラメータは個人情報には当たらない」との記載が入っていますが、医療機関や会員企業より、個人情報保護法の下でも、「個人情報に当たらない」ことを確認して欲しいとの要望がありました。

本件へのJIRAからの提案もあり、個人情報保護委員会での検討段階に入っております。

その他、医療機関のサイバーセキュリティ対策においても、行政、医機連他関連団体とも、そのあり方を進めております。

◆ 感染防止対策の啓発

感染防止対策の啓発では、2016年から診療放射線技師会と連携しながら、JIRA会員企業への啓発を進めています。

新型コロナウイルス感染症では、会員企業にアンケートを実施し、特に中小企業の会員において医療機関訪問時の感染対策に関するガイドラインの作成を求めていることが分かりました。

これを受けて、法規安全部会・販売保守委員会、経済部会・感染防止対策WGが連携し、感染防止ガイドライン作成WGを立ち上げ、「新型コロナウイルス感染予防ガイドライン」の第1版を2021年3月31日に発行いたしました。

JIRA ホームページに掲載されていますので、是非ご覧ください。

今後、医療従事者や会員各企業からのフィードバックをいただくとともに、JIRA 会員企業への啓発を通じ、感染拡大の防止に役立て、また医機連としてのガイドライン作成にも貢献していきたいと思っております。

◆ 会員企業の環境変化に伴う共通課題への支援(製品プロモーション、人材育成等)

ITEM2021 では、本日から開催のパシフィコ横浜展示と5月12日から開催のITEM2021-WEB 展示とハイブリットで開催させていただいています。

特に、昨年度の Web-ITEM2020 で会員企業から寄せられた課題については、改善してまいりました。

(詳細は”ITEM2021 開催概要 “のご案内の通りです。)

人材育成では、役立つコンテンツを冊子やオンラインセミナーを通じて、会員各社の人材育成の支援を行います。

◆ 国際展開

2021年1月からJIRAが議長を務めているDITTA活動では、3月16日から18日にかけてのワークショップも無事に終わることができました。

国際統合化、単一プログラムを推進し、国際展開の環境構築を進めてまいります。

◆ コンプライアンス・薬機法改正施行対応

コンプライアンスの遵守と薬機法の段階的施行の対応にむけ、会員企業への啓発も進めてまいります。

◆ 画像診断とともに、「その先へ」

2010年に経済産業省がまとめた「2030年の暮らしと医療機器」と言う未来予想図では、約10年が経過した現在、遠隔読影、オンライン診療、ウェアラブルデバイスなど、既の実現できているものが多くあります。

この未来予想図に加え、

- ・AMEDの医療機器開発の資料
- ・文部科学省の科学技術白書
- ・内閣府のムーンショット計画

などを、ベースに、

- ・装置やシステムの進化
- ・情報の融合
- ・そして、相互連携強化

を産学官で連携し、人々が笑顔で健康に暮らせる社会の実現にむけ歩んでまいります。

本日は、重要課題の進捗を中心に2021年度JIRA活動基本方針をご説明させていただきました。

今後ともJIRA活動へのご協力と、ご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

以上

2025 年 画像医療システム産業がめざすビジョン

人口構成の急激な変化により超高齢社会へと社会構造が大きく変化し、顕在化している社会保障費の増大、生産年齢人口の減少等の課題解決が、国を上げて取り組まれている。

政府は、健康寿命の延伸、人生 100 年時代、働き方改革といったテーマを掲げ、団塊の世代が後期高齢者(75 歳以上)に達する 2025 年問題に向けて社会保障等の改革を進めるとともに、団塊ジュニア世代が高齢者となる 2040 年を見据えた具体的な施策の検討も進めている。

また、高齢化は世界各国で同様に進んでおり、政治、経済等の情勢も変化している。

こうした状況を踏まえ、2013 年に策定し進めてきた「JIRA 画像医療システム産業ビジョン 2020」を、2019 年 4 月に「JIRA 画像医療システム産業ビジョン 2025」として改定した。

JIRA 画像医療システム産業ビジョン 2025

第 1 のビジョン

社会の変化に先駆けた世界をリードする医療イノベーションを実現する。

- 社会の動向(少子高齢、個別化医療等)にマッチした高精度・高機能、低侵襲の画像診断・治療等の技術探求と創造により、以下を実現する。
 - ◆ 予防・診断・治療の連携強化と、早期診断・低侵襲治療による健康寿命の延伸
 - ◆ 新たな医療産業分野と連動した画像医療システム産業の強化・拡大

第 2 のビジョン

革新的なデジタル技術の活用により、医療の質向上と医療機器産業拡大に貢献する。

- 画像医療システム産業への AI、医療 IoT、医療ビッグデータ、次世代通信技術等の活用促進により、以下に貢献する。
 - ◆ 臨床価値の創出と診断支援技術の拡大、診断と治療の連動、医療の効率化
 - ◆ 遠隔医療、地域包括連携、予防、在宅等の関連産業創出

第 3 のビジョン

日本の優れた医療、医療システムを世界に提供し貢献する。

- 画像医療システム・サービスの国際展開に必要な国際整合、地域別規制対応により、以下をめざす。
 - ◆ 日本の医療システムの海外展開の加速による世界の医療への貢献
 - ◆ 医療機器及び関連産業の輸出拡大

第 4 のビジョン

社会・自然環境の変化に適応したシステムの提供により、安全・安心で安定した医療を実現する。

- エネルギー問題、サイバー攻撃、自然災害、就労人口変化等に適応した画像医療システムの開発促進により、以下をめざす。
 - ◆ 優れた環境性能(省エネ、小型、ユーザビリティ等)を持ち、緊急時も持続可能な医療の提供
 - ◆ 医療ネットワーク上の脅威に耐えうるサイバーセキュリティの確保

2021 年度 JIRA 活動基本方針

2021 年度の JIRA 活動基本方針は、「JIRA 画像医療システム産業ビジョン 2025」にある 4 つのビジョンの実現を目指し策定された。

2021 年度の JIRA 活動は、ウィズコロナ・ポストコロナにおけるニューノーマルに向け、

- ◆ DX(Digital Transformation)の拡大
- ◆ 医療従事者の業務効率向上への貢献
- ◆ 感染防止対策の啓発
- ◆ 会員企業の環境変化に伴う共通課題への支援(製品プロモーション、人材育成等)

を重要課題として取り組む。

また、課題解決に向け、JIRA は会員、医療従事者、学会、医機連、行政をつなぐハブ機能の役割を促進する。

1. 社会の変化に先駆けた世界をリードする医療イノベーションを実現する。

超高齢社会の課題である「健康寿命の延伸」には、早期診断・低侵襲治療を支援するモダリティ・機能の提供、予防・診断・治療など広範な分野での医療情報の連携、多種多様・大量の医療情報を分析し新しい視点を提供する技術開発、個別化医療(パーソナライズド・メディシン)の実現、新たな医療産業分野との連動が重要である。

JIRA は、

- 医療保険制度、医療法、薬機法等に関する行政への提言
- 医機連他、関係団体の連携、啓発活動
- 画像医療システム産業の裾野の拡大

を積極的に取り組んでいく。

2. 革新的なデジタル技術の活用により、医療の質向上と医療機器産業拡大に貢献する。

人工知能、医療 IoT、医療ビッグデータ、次世代通信技術等、革新的なデジタル技術が医療の質向上に貢献し始めており、画像医療システム産業拡大へのチャンスでもある。

これらの技術の活用は、画像診断支援、患者/医師の負担軽減、新たな診断・治療の連動、医療現場の効率化も含めて、画像医療システム産業が新たな時代構築の先駆けとなっていくことが想定される。

JIRA は、

- AI(人工知能)の社会実装拡大に向けた環境整備
- IT 産業、医療系ベンチャー企業の支援
- 医療従事者の業務効率向上への貢献

を積極的に取り組んでいく。

3. 日本の優れた医療、医療システムを世界に提供し貢献する。

画像医療システム・サービスの国際展開には、地域の医療機器に関する規格・制度への対応、地域の医療ニーズに応じた画像医療システムの提供、地域の政情・経済・環境・社会・技術動向等様々な情報収集が重要である。

JIRA は、

- 標準化(ISO・IEC・JIS・JESRA 等)活動の推進
- 医療機器に関する規制の国際調和推進(DITTA 議長としてリーダーシップの発揮)
- 海外進出支援

を積極的に取り組んでいく。

4. 社会・自然環境の変化に適応したシステムの提供により、安全・安心で安定した医療を実現する。

日本の医療技術・医療機器システムは「安全・安心で安定した医療の実現」に貢献してきているが、近年、サイバー攻撃の巧妙化、労働人口の減少等の社会環境変化や、地球温暖化等の自然環境変化への適応が重要度を増してきている。

JIRA は、

- 医療環境を阻害するリスク(サイバー攻撃、感染症の拡大等)への対応の啓発
- 装置メンテナンスに関する価値の訴求
- 環境負荷の低い省エネ型システムへの移行促進

を積極的に取り組んでいく。

5. JIRA 基盤活動の充実

JIRA は、4 つのビジョンを実現するための基盤として、以下の活動について充実を図る。

- コンプライアンスに関する啓発活動の推進
- ニューノーマルに向けた JIRA 会員へ提供する価値の向上
 - ◆ 技術革新を後押しする Webinar の開催
 - ◆ 個社ではできないプロモーションの場の提供
 - ◆ T-con を活用し、遠方会員・委員の拡大
 - ◆ 会員向け情報の動画配信
 - ◆ 部会・委員会活動メンバーのプレゼンス向上、支援、継続性の確保
- 既存活動の継続的推進
 - ◆ 広報活動の強化
 - ◆ 調査・研究活動の強化
 - ◆ MRC 認定制度の拡大
 - ◆ 薬機法に基づく継続的研修の開催
 - ◆ ITEM の付加価値向上

2021年度JIRA活動基本方針

JIRA画像医療システム産業ビジョン2025



